

東日本大震災:「悲劇繰り返すまい」 教育現場で愛児亡くした「子ども安全学会」メンバーら、日和幼稚園遺族と意思共有 /宮城

毎日新聞 2014年09月27日 地方版

教育現場での事件や事故、災害で我が子を亡くした親や専門家らでつくる「子ども安全学会」のメンバーが25日から3日間の予定で、東日本大震災で多くの小さな命が奪われた県内の被災地を訪れている。石巻市では「二度と悲劇を繰り返すまい」と同じ思いを共有する遺族らと交流、子どもの安全確保をどう実現していくかについて意見を交わした。【近藤綾加】

2012年7月、愛媛県西条市の私立幼稚園に通っていた長男慎之介君（当時5歳）をお泊まり保育での川遊び中に亡くした吉川優子さん（43）らが中心になり、今月同学会を発足した。学会では専門家や他の事故遺族と連携し、教育現場における子どもの安全管理について情報発信や勉強会を行う。

吉川さんら学会メンバー3人は26日、石巻市を訪れ、津波で園児5人が犠牲になった私立日和幼稚園の遺族4人と面会。遺族らが「真実を知りたいという遺族の思いの受け皿がない」「社会に知ってもらうために、どう伝えていくべきか」などと問いかけると、吉川さんは「まずは問題点を全て洗い出すこと。その上で一つ一つの課題を解決するためにどうアプローチするのか考えましょう」と提案した。

交流後、同園で長女愛梨ちゃん（同6歳）を亡くした佐藤美香さん（39）は「とても勉強になった。子どもを守るために何ができるか考えたい」。吉川さんも「同じ思いだと分かり、話せてよかった。震災だから（子どもが亡くなったのは）仕方ないと見られがちだが、そういう問題ではない。事故でも災害でも事前にどれだけ準備していたかが大事」と話した。

吉川さんらは児童・教職員84人が死亡、行方不明になった石巻市立大川小学校なども訪ね、遺族らと交流した。27日は山元町の遺族を訪ねる。今後も震災遺族と「子どもの安全問題の根底にあるものを共有しあって、つながっていききたい」とし、勉強会に電話などで参加してもらいたい意向という。